

ヒュッテの夜 (原調)

深田 久弥 詞曲
高木 東六

(X3) Eb Fm Eb Bb7 Eb Ab Eb Bb7

5 Eb Bb7 Eb Ab Eb Bb7

Intro. Fm Bb7 Eb Ab Eb Ab Bb7 Eb Bb7 Eb

雪の青さを 透(ト)す窓 湯気に凍った 花ガラス
温(ヌ)めた指で 字を書けば そこから溶けて 痕も無く
耳を済ませば 遠方(オカ)に 鳴るもののあり 心かよ

おや何の音 雪崩れかと 我に返れば 軒端(ノキバ)から
部屋の温(ヌ)みに 溶かされて 雪と氷柱(ツラ)の 落ちた音
ストーヴの湯も 沸いたから お茶を飲み飲み 話そうよ

つのる吹雪に 目が覚めて 誰か呼んでる 叩いてる
山の精だと 脅されて かつぐ布団の 暖かく
冬のヒュッテの 夜更けどき 呼んでいたのは 夢かしら